

創刊110周年記念

誇れるふるさと

24地区リレー

〈vol.17〉

<常盤① 特徴>

常盤地区は、1978年に恩田地区と西岐波地区の約1100世帯が分離合併して発足した。南北に縦断する山口宇部道路が2012年に無料化したことで宇部と県央間のアクセスが向上。東西に走る国道190号とも交差し、宇部市内の交通の要衝となっている。また、宇部の観光拠点の常盤公園があることも大きな特徴だ。

宇部炭田発祥、常盤湖周辺に採掘跡



石炭記念館の前に広がる常盤湖（常盤公園で）

県央へのアクセスの要衝



地区の発足年から半世紀近く前の1924年、宇部発展の礎を築いた渡辺祐策が常盤湖畔7000坪（約2万3000平方メートル）を購入し、市に寄贈。翌年、その土地に常盤公園が開設された。58年には遊園地ができ、64年には県内初の動物園だった宮大路動物園が松山町1丁目から移転。2016年に国内で初めて全園に生息環境展示を取り入

基本データ

- 面積4.89平方キロ（15位）
- 世帯数3877世帯

- 人口8159人（9位）
（男性3889人、女性4270人）
- 高齢化率32.4%
- 小学校児童数446人
- ※世帯数などは2022年4月1日現在

れた「ときわ動物園」がランドオープンした。県内最大の規模を誇るかんがい用ため池の常盤湖は、江戸時代初期の1698年に宇部一帯を治めていた福原広俊の家臣、椋梨権左衛門俊平の指揮で造られた。かんがい面積は17畝。2016年に国際かんがい排水委員会の国際執行理事会で世界かんがい施設遺産に登録された。300年以上がたった現在でも、毎年6〜9月に常盤湖水利組合が、水底のふたを開けて周辺の田に水を供給する栓免（せんめん）を行っている。湖畔を巡る5.7キロの遊園路コースでは、ジョギングやウォーキングを楽しむ市民の姿が多く見られる。沿道には菜の花や桜、コスモスが咲き、季節ごとに違った表情を見せている。コロナ禍で加速したアウトドアブームの影響もあり、キャンプ場には市内外から多くの人が訪れる。石炭を採掘した跡「山炭生（やまたぶ）」が湖の周辺に点在。湖底に江戸時代の露天掘りが確認されたことから、常盤は宇部炭田の発祥の地と言える。閉山から2年後の1969年、文献や機材を集めた石炭記念館が同公園内に開館した。現在、深い穴は埋められ、3畝の竪穴を遺産として保存している。わくわく常盤（藤永徹也会長）など、地域団体と子どもたちが定期的に保全活動に汗を流す。地区コミュニティ推進協議会会長で常盤児童保育クラブ代表理事の野村隆さん（78）は「地域に観光拠点があることは財産。花見やウォーキングでよく利用している。分離合併から45年、学校と地域の連携でつながりが深まって」と話した。